

新見公立短期大学大韓民国学術交流団派遣報告

原田 信之	山中 文	石橋 由美
石田 純郎	北原 久子*	羽瀨 喜代*
宮崎亜希子*	上田 理恵**	恵谷 美幸**
	谷山 壽子**	

海外学術交流

A Report of the Niimi College Official Delegation to Department of Japanese,
Tongmyong College in Republic of Korea

Nobuyuki HARADA Aya YAMANAKA Yumi ISHIBASHI
Sumio ISHIDA Hisako KITAHARA Kiyoko HABUCHI
Akiko MIYAZAKI Rie UEDA Miyuki EYA

Hisako TANIYAMA

(2002年11月1日受理)

1. 概 要

平成14年(2002年)3月、新見公立短期大学では第1回海外学術交流団を2組派遣することになった。1組目は大韓民国、もう1組はアメリカ合衆国に派遣され、それぞれ学術交流を行った。本報告は大韓民国に派遣された学術交流団の報告書である。韓国学術交流団の日程は平成14年3月20日(水)~3月26日(火)までで、参加者は教員4名(団長・石田純郎、石橋由美、原田信之、山中 文)と学生6名(北原久子、羽瀨喜代、宮崎亜希子、上田理恵、恵谷美幸、谷山壽子)の計10名である。概要は以下の通り。

3月20日(水) 博多港出発、高速船(JRビートル)で釜山港着。

釜山市内見学。

3月21日(木) 釜山の東明専門大学日本語学科を訪問。

3月22日(金) 慶州史跡研修。

3月23日(土) 安東史跡研修。

3月24日(日) 慶尚南道陝川郡の海印寺見学。

3月25日(月) 釜山市内見学。

3月26日(火) 釜山市内保育施設見学
(YMCA 経営の幼児教育施設)。

釜山港出発、高速船で博多港着、解散。

以下、東明専門大学訪問、史跡研修、保育施設見学の各項目ごとに概略を述べる。

2. 東明専門大学訪問

3月21日(木) は東明専門大学日本語学科(Department of Japanese, Tongmyong College)を訪問した。午前10時、学科長の韓鐸哲(ハン タ

*新見公立短期大学看護学科学生

**新見公立短期大学幼児教育学科学生

ク Chol) 教授が大学専用バスで交流団一行が宿泊しているホテルまで迎えに来てくださり、午前10時半頃、東明専門大学に到着した。まず日本語学科オフィスで、韓鐸哲教授および金永好(キムヨンホ)教授の2名に挨拶し、大学および学科の説明を受けた。

韓国の専門大学は、米国のコミュニティカレッジや日本の短期大学に相当する高等教育機関である。東明専門大学は、1979年3月に開学し、地域への有能な人材の供給を目的として、実践的知識と技能の専門教育を行っている。大学には建築、情報、機械、経営などの17学科がある。

日本語学科(2年制)のめざす教育目標は、最近の韓日間交流の深まりに合わせた実践的な日本語教育と、旅行社やホテル、商社などで働く人材の育成である。日本の地理、社会、経済、文化についての実践的な知識を使って、listening, speaking, readingそしてwritingの技能を学生たちに身につけさせている。

日本人の日本語教員(native speaking professors)2名に紹介され、そのうちの1名の日本語の授業に本学幼児教育学科の学生3名と石橋・山中が参加した。本学看護学科の学生3名は別の日本語学科のクラスに行き、韓国の学生たちと日本語で自由に会話する機会を持った。

本学幼児教育学科の学生3名とともに石橋・山中が参加した授業では、20人くらいの受講学生がいた。授業のはじめに本学の学生3名と石橋・山中は、それぞれ日本語で自己紹介した。日本語教員は、各自自己紹介が終わるたびに、話の内容について受講学生に日本語で質問し、日本語で答えさせていた。質問の内容は、話の中に出た日本の地名や大学・学科の専攻、日本での生活の様子や趣味などについてであった。その後、本学学生それぞれ1名を囲んで三つのグループに分かれ、日本語で「草の根」文化交流を行った。韓国学生たちの日本語レベルはさまざまであったが、日本語をよく話せる学生が通訳しながら本学学生との会話を積極的に試み、本学学生ともども交流を楽しんでいるようだった。

昼食は、本学教員および学生全員が、職員食堂の特別室でサムゲタン(若鶏の腹の中に高麗人

参、ナツメ、餅米、栗、ニンニクなどを入れて煮込んだ料理)等数々の韓国料理のもてなしを受けた。

午後、本学学生たちは、午前中の授業で知り合った東明専門大学の学生たちの導きで学内見学および釜山市内見学を行った。韓教授が1クラスの学生を6グループに分け、1グループごとに本学学生1名と韓国の学生5~6名となるように決められた。グループ分けが決まると、それぞれのグループが別々に釜山市街へ出発して行った。学生たちはそれぞれ、巷の文化交流を行い、その後、宿泊先ホテルまで韓国の学生たちに送り届けてもらった。本学学生は韓国の学生たちの親切なもてなしに感激したようだった。

一方、教員は、韓教授の案内で東明専門大学および同じ敷地にある東明大学の学内施設を見学した。情報処理センター(Information Processing Center)が大学の中核システムとして機能しており、学園全体の情報サービス・教育サポート・履修登録などの管理業務を行っている。マルチメディア関係の設備は充実しており、目を見張るものがあった。特に印象的だったのは、学内にサイバーカフェ(Cyber Cafe)があったことである。センスのいい空間に、最新のパソコンやDVD機器がそろい、多数の学生が自由に楽しんでた。業者が入って営業しているのかと思い質問すると、学生のための無料の施設とのことであった。

学内施設見学後、引き続いて韓教授が本学教員一行を、釜山市郊外の金井山の中腹にある梵魚寺(ポモサ)、釜山大学博物館、釜山のリゾート地として有名な海雲台(ヘウンデ)等を案内して下さった。梵魚寺は、新羅華嚴の初祖義湘(625-702)が建立した華嚴十刹の1つとして有名な古刹である。文禄の役(韓国では壬辰倭乱という)の際に焼かれたが、1614年に再建されたという。厳かな雰囲気をもつ古刹であった。次に行った釜山大学博物館は釜山大学に併設されている立派な博物館で、考古学資料を中心に展示されていた。当日は記録的な黄砂のため、視界が悪かったのは残念であったが、景勝地海雲台はちょうど桜が満開であった。

以下、交流団に参加した学生6名に「韓国の大

学生と交流して」というテーマで書いてもらったレポートを掲載する。なお、学年表記は交流時のものとした。

看護学科2年次生 宮崎亜希子

今回、韓国の学生と交流があると聞いて楽しみだったが、直前に日本人1人と韓国人5～6人でグループになって交流することになったと聞かされた。その時、「少し怖いな……」と無意識に言っていた。その言葉を聞いていた母に、「失礼なことを言いなさんな。何が怖いよ!」と言われ、自分で気づかないうちに韓国に対する偏見があったのだということに認識しショックだった。以前、韓国旅行に行ったとき鞆を地下鉄の中で切られたこともあったからかとも思ったが、正直それだけではないような気がした。

このように少し複雑な心境のまま東明専門大学を訪問したのだが、いざ実際に学生と交流してみると本当に気さくな学生ばかりで、情報処理の授業にいきなり乱入して来た日本人3人をとても暖かく歓迎してくれた。午後からはそれぞれのグループでの行動だったが、本当に楽しい時間を過ごすことができ、また韓国風のもてなしに驚き、少し恐縮さえてしまった。

今回、韓国の学生とお友達になって、初めて韓国という国・文化・生活の実際を知ることが出来たように思う。このように関わりを持つことで自分の中にあった怖いという感情は消え、今は親しみさえ感じられる。このことを通して、無知ということがどんなに怖いかということを感じた。お互いに、お互いのことを知り、認め合うことでわかまりのない交流が出来るのではないかと思った。私は今まで何も知らないくせに、先入観で韓国という国・人・文化を見ていたように思う。韓国人は日本のことを本当によく勉強していた。私も、より良い交流をしていくためにも隣国・韓国についてもっと勉強する必要があると思った。

看護学科2年次生 羽瀨 喜代

高速船で約3時間。日本から1番近い国韓国で、実際に東明専門大学日本語学科の学生と交流することが出来て、本当によい思い出になりました。

学生とは、お互いにそれぞれの国ではやっている服装とか化粧品について話したり、言葉を教えあったりしました。そのため、日本での普段の生活の中では体験できない刺激をたくさん受けることが出来ました。多少言葉が通じないこともありましたが、趣味の話や将来の夢、恋の話についても話ることができ本当に楽しかったです。中でも大いに盛り上がったのが、誰が1番かわいい(日本に行ったらモテるか)という事についてでした。

正直私は、今まで韓国の歴史や文化などについて全く知ろうとも思っていませんでしたが、今回の交流を通してもっと知りたいと思うようになりました。そして、これから先、国際交流が深まる中で、改めて、日本人として自国の歴史や伝統、文化についてももっともっと勉強していかなければいけないという事を実感しました。

幼児教育学科1年次生 上田 理恵

韓国の学生に、いろいろな所へ連れて行ってもらいました。また、焼肉などおいしいものもたくさん食べました。韓国人は思ったことをストレートに言葉に出すので、不快に思うことがあるかもしれないけど許してねと言われ、日本のことをよく理解してくれていました。私はあまり韓国のことを知らなくて、教えてもらうことばかりでした。日韓の歴史的背景から、日本のことは好きだけど嫌いといわれ、複雑な気持ちでした。しかし、日本のアイドルなどは韓国で人気でとても興味があるので、韓国にも彼らのCDが普通に入ってくるようになって欲しいと言われ、日韓の仲が良くなるように思っていることは同じだと思いました。

たった1日の交流だったけれど、別れのとき、別れ難く1時間近く話していました。住所を交換したので、文通を始めました。これからもずっといい関係が続いて、また会える日が来るといいなと思っています。

幼児教育学科1年次生 谷山 壽子

韓国の学生と交流して感じたことは、韓国人は、とても人なつっこいということです。韓国の学生5人くらいのグループに、1人ほうりこまれて自由行動をすることは、意外に人見知りをする

私にとっては、少しキツイものがありました。ウマが合わなくて早くホテルに帰らされて、ホテルでぼつんと1人でみんなの帰りを待たなければいけなかったらどうしようかと思っていました。

でも、私にとっても興味を示してくれて、積極的に話かけてくれたり、質問をしてくれたりしました。日本語を専攻しているからか、とても日本のことをよく知っていました。その反面、私はあまりにも韓国のことを知らなさすぎて、少し恥ずかしかったです。少し韓国について勉強して行ったらよかったなと、思いました。

彼女たちは、特に日本のアイドルに関しては詳しくて、嵐の〇〇くんや、w-indsの〇〇くんがかっこいいよねとか言われて、アイドルに興味のない私は誰のことを言っているかさっぱり分からなくて、反対に教えてもらっているといったかんじでした。

幼児教育学科1年次生 恵谷 美幸

まず、どんな交流をしたのかを先に述べたいと思います。学校から運行しているバスと地下鉄と一緒に乗り、繁華街の方へ出ました。最初は、若者向けのおしゃれなショッピングビルに連れていってもらい服をみて、そのあとは、おやつとして凄く辛いラーメンを食べました。そのあとは韓国の学生に「どこに行きたい？」と聞かれたので、私は「みんなが普段遊んでいるところに連れて行ってほしい」と頼みました。そうすると、まずケンタッキーフライドチキンに行き、チキンやらジュースを軽く食べました。次に、ビリヤードが出来るところに行き、ビリヤードをし、ゲームセンターに行き、タワーレコードのような音楽のショップに行き、最後はおしゃれな若者向けの店に行きから揚げやフライドポテト等を食べました。

こうしてみると、韓国の学生も日本の学生も休日や放課後の遊び方は似ているなと思いました。また、髪の毛を茶色にしたり流行の格好をしたりとおしゃれを楽しんでいる人も多くいました。韓国人と日本人は顔もよく似ており、国も近いのですごく仲良くなれるような気がしました。

しかし、韓国の学生は、日本の文化や歴史をよく知っているのに、私も含めて日本人は韓国のこ

とを知らな過ぎるなと思いました。なんで、こんなに近い国なのに知らないことが多いのだろうと恥ずかしかったです。韓国の人は「日本人は好きだけど嫌い」という感情があるのは、日本人が韓国のことを知らな過ぎるのも原因の一つだと思います。最近、日韓交流という言葉をよく聞くようになり、もっともっと多くの人が韓国に興味を持ってもらえればいいなと思います。過去の歴史も含めて本当の意味での深い交友関係を持てるようになりたいです。ぜひぜひ、いろんな人に韓国のことを知ってもらいたいと思える体験でした。

看護学科2年次生 北原 久子

今回の旅行に際し本学の先生は「韓国の学生は夜遅くまで一日中君たちをいろいろな場所に案内し、凄くもてなしをしてくれるだろう」と言っていました。私は日本での在日何世にもなるある知人との関係の中で、韓国人の情の深さやもてなしの厚さ、親を大切にする姿勢を感じることがありましたが、“本当に初めて会う大学生がそんなに私たちのことをもてなしてくれるのだろうか？”と半信半疑でした。しかし彼女たちのもてなし方は私の予想以上のものでした。

例えば、私が姪に髪飾りの土産を買ってかえろうとし、その姪がピンクを好むと知ったならば、彼女たちは店中のピンクの髪飾りを次から次へと私の前に持ってきて「これはどうか」と見せてくれます。また、キティちゃんが好きだと分かればその途端にキティちゃんのピンクのゴムやピンを大量に持ってきてくれるのです。街を歩いていても、次から次へと食べないかと言って御馳走してくれようとしています。断っても彼女たちは「ひーちゃんに韓国のおいしいものをたくさん食べて欲しいのです」と言います。そして別れの前にはカラオケでとった私たちの歌声の入ったテープを記念にプレゼントしてくれました。

私は“自分だったらここまでしないだろうなあ”という程の厚いもてなしを受け、改めて国民性や文化の違いを感じました。また日本の知人と韓国の学生とが重なり、日本で生まれ育ってさえも、文化とは家族の中でしっかりと息づいていくものなのだなあと感じました。韓国文化には儒教が色濃く反映されており、それが老若

男女問わず、また、土地を変えても強く根付いていると改めて感じた旅行でした。

3. 史跡研修

3月22日（金）から3月24日（日）までは、韓国西部地方各地（慶尚北道・慶尚南道）で史跡研修を行った。3月22日（金）は朝に釜山駅を出発し、列車で慶州に行った。慶州は慶尚北道南東部の古都で、新羅九百年間の都であった。慶州では大陵苑、国立慶州博物館、石窟庵石仏、仏国寺等を見学した。大陵苑は大小22基の古墳と1基の王陵がある古墳公園である。公園内にある天馬塚は、統一新羅以前の古墳で、内部に入って見学可能な展示古墳となっていた。国立慶州博物館は、新羅時代の遺物を中心に慶州地域で発掘された遺物10万余点が所蔵されている著名な博物館である。訪問時は工事中で、一部の展示館が見学できないためか、入館料は無料であった。石窟庵は、景德王10年（751年）に宰相の金大城が創建したとされ、吐含山の頂上近くにある。この石窟庵は、山腹に石窟を人工的につくったもので、インドや中国のように岩山をうがって造成したものではない。本尊の石仏は、釈迦如来像説、毘盧遮那仏説、阿弥陀如来像説などがある。駐車場で降り、一行が石窟庵への急な参道を登っている途中から雪が降ってきた。韓国の修学旅行生らしき一行も多数来ており、韓国屈指の観光地であることがうかがえた。仏国寺は、石窟庵とともに宰相の金大城が751年に創建したとされる。石窟庵と仏国寺は1995年にユネスコにより世界文化遺産に登録された。仏国寺は韓国で最も有名な寺院であるという。一行が仏国寺に到着した時、白バイに先導された乗用車の一群が来て、すぐ帰って行った。あとで、日本の小泉純一郎首相が仏国寺を見学するための予行演習の白バイ先導隊であることがわかった。3月21日から23日まで韓国を公式訪問した小泉首相は、23日に釜山を訪問してから慶州に移動し、天馬塚と仏国寺を見て金海空港から帰国したということであった。一行が宿泊中、韓国のテレビでは、記録的な黄砂による被害のニュースとともに、小泉首相韓国公式訪問の

ニュースが連日放送されていた。

3月23日（土）は朝に慶州駅を出発し、列車で安東に行った。慶尚北道の都市安東は洛東江上流に沿う交通の要衝で、古くからこの地方の教育・文化・行政の中心地として栄え、貴重な文化財も多い。安東駅周辺地にある大師廟や東部洞五層塔などを見た後、河回民俗村を見学した。安東には石仏や石塔が多いが、なかでも塔が有名である。塔はレンガでつくった塔で、安東に塔が多く残っているのは、文化・行政・経済の中心地であった事と共に、良質の粘土を産したためだとみられている。安東駅前にある五層塔は法林寺跡にあり、統一新羅時代（668-935年）のものだとされている。河回村は洛東江がこの村を取り囲むように流れていることからこう呼ばれるようになったという。河回村は、豊山柳氏家門が代々生活してきた同族村で、村全体が河回民俗村として保存・公開されている。現在でも村民が実際に暮らしている点に特徴があり、各地から多数の観光客が訪れている。1999年にはエリザベス・イギリス女王が訪問したといい、イギリス女王訪問記念展示館が村の入口に新設されていた。集落内の小道は舗装されておらず、伝統的な家屋が並び、朝鮮王朝時代の文化や習俗が残存している。また、河回村の仮面劇は特に有名で、高麗時代から行われてきたものだという。この仮面劇に使用される木製の河回仮面は11個伝わっており、韓国の国宝に指定されている。韓国の宝物に指定されている忠孝堂と養真堂は16世紀頃の民家で、忠孝堂は柳成龍（秀吉軍と戦った当時の宰相）の生家、養真堂は柳雲龍（柳成龍の兄の学者）の家で豊山柳氏の大宗家であったという。

3月24日（日）は朝に安東をバスで出発して大邱（テグ）へ行き、さらにバスを乗り換えて慶尚南道陝川郡の海印寺（ヘインサ）へ行った。門前で下車して約30分参道を登り、伽倻山の南麓にある海印寺に到着した。海印寺は802年（新羅哀莊王3年）に創建されたという古刹で、華嚴十刹の1つである。八万大蔵経（海印寺版大蔵経とも高麗大蔵経とも称される）の版木を所蔵していることで知られ、韓国三大寺刹（仏宝の通度寺・法宝の海印寺・僧宝の松広寺）の1つでもある。八万

大蔵経は1995年にユネスコにより世界文化遺産に登録された。大蔵経とは仏教聖典の総称で、仏教が広まった諸国で大蔵経が編纂されたが、パーリ語・漢訳・チベット語訳・モンゴル語訳・満州語訳のものが現存している。高麗大蔵経初刻板が1232年（高麗の高宗19年）蒙古軍の侵入により焼失したため、蒙古軍の退散を願った高宗が復刻を決意し、16年をかけて1251年（高宗38年）に完成した。これが現在の海印寺版大蔵経であり、版木が8万1258枚あることから八万大蔵経と称されている。白樺材の経板の大きさは縦約24センチ・横約69センチ・厚さ約3.8センチで、両端に角木をつけ四面角を銅で装飾し、全面にうるしを塗っている。23行14字詰で両面に彫刻し、板の端に経名・巻数・張数・千字文による函号を刻んでいる。海印寺版大蔵経は初刻板をさらに校訂したもので、すぐれた内容をもつ。そのため、わが国に多数請来されたもののうちの1つである増上寺所蔵本高麗大蔵経は、わが国で編纂された大蔵経の決定版『大正新脩大蔵経』の底本とされた。気の遠くなるような緻密な知的作業の集積である膨大な八万大蔵経の版木の実物を目にとると、深い感動と畏敬の念にとらえられた。海印寺を下山し、バスで大邱へ戻った時にはすでに夕方になっていた。大邱は慶尚北道南部に位置し、ソウル、釜山に次ぐ韓国第3位の都市である。この日、一行は大邱で宿泊した。

3月25日（月）は朝に大邱駅を出発して列車で釜山に戻り、釜山広域市内を見学した。

4. 保育施設見学

3月26日（火）の午前9時30分から10時30分まで、東明専門大学日本語学科長の韓鐸哲教授の案内で、「釜山YMCA子どもスポーツ団」を幼児教育学科学生3名と教員石橋・山中が訪問した。

ここは、スポーツ・英会話の才能開発を看板にした、公式の幼稚園とは異なる幼児教育施設で、釜山駅近くのYMCAビルの6、7、8階を占め、YMCAが経営している。釜山YMCAは今年で創立56周年を迎え、幼児教育部門は22年目であるが、この他にいわゆる一般型の幼稚園も2園

持っている。訪問した当施設は、スポーツ・英会話を中心として一般の幼稚園の保育内容や伝統文化を取り入れたカリキュラムを構成して実践している。

園児は5歳～7歳（満年齢3歳～5歳）で、約400名が通園している。6Fが7歳児、7Fが6歳児、8Fが5歳児のクラスになっており、ビル内の他のフロアにプールや体育施設を持っている。園児の保育時間は9:30～15:00であり、40分授業・10分休憩という時間割で学んでいる。体系的なカリキュラムを使っている科目としては、水泳、スケート、体操、ダンスのほか、科学、英語、囲碁、伝統音楽がある。

私たちが訪問したとき、7歳児は2クラスで授業が行われており、それぞれ英語、科学であった。英語の授業ではネイティブの教師2人がアルファベットの読み方や数字の数を指導しており、科学の授業では科学専任教師2人が化学実験用具の名称や取り扱い方を指導していた。6歳児の1クラスでは伝統音楽の一斉指導が行われていた。この授業では、伝統楽器の説明や試し打ちが行われていたようである。いずれの科目も複数の専門教師と担任教師でチームティーチングをしていた。日本の幼児教育施設では、「鼓隊」の技能指導で専門家を招いて類似した教育形態をとっているところもあるが、本格的なチームティーチングはあまりみられないので、興味深かった。

5、6歳児クラスでは、紙芝居を読みきかせしている様子や、ブロック遊び、はめ板遊びなど、日本でおなじみの保育風景もみられた。その他、体育施設へ出かけているクラスもあった。

園長の話によれば、体系的なカリキュラムで実施されている教育科目では、いずれも幼児教育のトレーニングを受けた科目専任講師が主に指導にあたり、さらに担任教師が加わるということであった。担任教師は、その他に、歌や言葉、絵本などの指導と雑務を受け持っている。

今回の訪問では、韓先生が付き添って通訳してくださったおかげで、短時間ではあったものの、充実した施設見学と情報収集ができた。学習形態やカリキュラム、チームティーチングの様子などから韓国の教育熱心さを実感し、またYMCA独

自の充実した英語教育を直接垣間見ることでもできた。わが国も、子どもの保護者のニーズを取り入れて保育内容を構成し、各保育施設独自の保育サービスを提供することが求められる時代になってきたが、今回の訪問は、文化の違いを超えて学ぶところが大いにあったと思う。

5. おわりに

以上で新見公立短期大学大韓民国学術交流団派遣についての報告を終える。サッカーの世界カップが日本と韓国で共同開催された記念すべき

年に訪問したおかげで、交流団一行は熱烈な歓迎を受けた。こうして、新見公立短期大学大韓民国学術交流団は、多くの成果を得て帰国した。今後とも両国間の各種交流がさらに広がることを願うものである。

最後に、東明専門大学日本語学科の皆様、訪問時お世話になった多くの韓国の皆様、新見公立短期大学関係者の皆様、訪問団派遣にご協力いただいた本学新居志郎前学長にお礼申し上げます。特に、全日程にわたってお世話いただいた東明専門大学日本語学科学科長の韓鐸哲教授に深甚の謝意を表します。